ヴォイド・ピロティの展開

若松均の建築展

Unfolding through Void & Pilotis

実証　桜並木の集合住宅（2011）©鈴木研一

広瀬川コート

（群馬県前橋市住吉町2-2-16）

入場無料

展示方法が各期によって異なります（3パターン）

第1期 2026/1/11 Sun・12 Mon・26 Mon

第2期 同 /1/17 Sat・18 Sun

第3期 同 /1/24 Sat・25 Sun

13:00－18:00（最終日26日 11:00－15:00）

主催・運営　前橋工科大学石黒研究室

お問合せ　m2426008@maebashi-it.ac.jp（担当：内海）

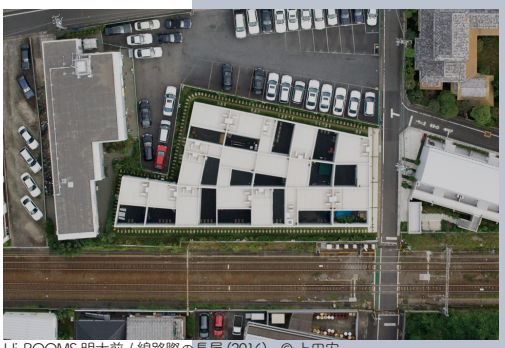
会場構成協力　若松研究室 / 若松均建築設計事務所

QRコードまたは
(https://forms.office.com/r/k1ztH3UeeF) から
アンケートのご協力をお願いいたします。

若松均の建築展
ヴォイド・ピロティの展開

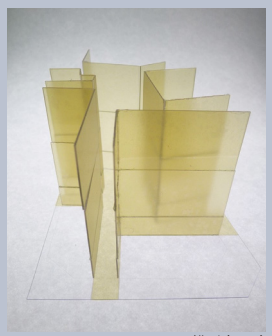
fw bldg. (2003)　© 平賀茂

緑ヶ丘のコーポラティブハウス (2016)　© 鈴木研一


Hi-ROOMS 明大前 / 線路際の長屋 (2016)　© 上田宏

丸太と高床 (2022)　© 中山保寛

yh bldg. (2011)　© 鈴木研一


yh bldg. 模型 (2011)

近代建築の言語の中でも特に「ピロティ」は周辺環境との関係や配置によって多様な展開の可能性があるのでは、と考えてきました。私たちの設計作品の多くは都内に位置し、エントランスや駐車スペースのために、地上レベルで空地が自ずとピロティ状に現れてきます。住戸へのアプローチの場である共用スペースは、単なる通過動線ではなく立体的で積極的なカタチのヴォイドを伴いながら、さまざまな内と外を構成し展開していきました。現実的な都市性を内包し、内外の関係を延長した場として「ヴォイド・ピロティ」と名付けました。（若松均）

本展では、若松作品の空間的特徴である「ヴォイド・ピロティ」の魅力と意義を 12 の作品を通して展開させていきます。若松均の建築が、形式の明快さと作品間のバリエーションによって多様な解釈が可能である、ということからインスピレーションを得て、会場である「広瀬川コート」での、会場構成を 3 期に渡り 3 パターン用意しました。これにより、鑑賞体験および作品への理解や認識がどのように変化するのかを検証し、「建築にとっての展覧会とは何なのか？」という、建築展は実物を展示できないという問題に対する答えのひとつを導きたいと目論んでいます。みなさまには是非 3 パターン（3 期）を経験して、その検証の目撃者になっていただけますと幸いです。

（石黒由紀研究室　石黒由紀＋＜担当 / M2＞内海陽資）

若松均　Hitoshi Wakamatsu

経歴
1985　東京工業大学工学部建築学科卒業
1988　株式会社デスクファイブ
　　一級建築士事務所設立
1999　株式会社若松均建築設計事務所に改称
2016-　前橋工科大学教授

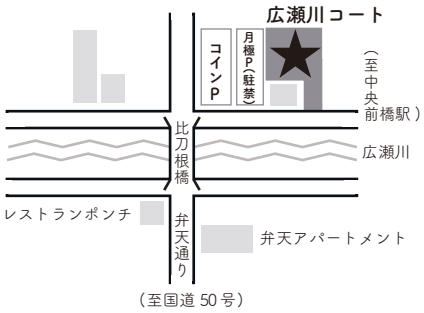
受賞歴
1995　東京建築士会住宅建築賞：「柿の木坂の住宅」
2008　日本建築家協会 (JIA) 新人賞 (5 選)：「上用賀コートハウス」
2009　新建築賞（吉岡賞）、東京建築士会住宅建築賞奨励賞：
　　「Hi-ROOMS 明大前 / 線路際の長屋」
2018　日本建築学会作品選奨：「緑が丘のコーポラティブハウス」
2023　東京建築賞優秀賞：「柿の木坂通りの家」
2023　ウッドデザイン賞、2024 東京建築賞奨励賞：「丸太と高床」

© 石黒由紀

広瀬川コート

石黒研究室が中心となり、OB などの産・官・学の協働によって空き家リノベーションを実施した、まちのアート支援スペース＋シェアハウスの複合建築。戦後からの数回にわたる増改築の歴史のリレーのバトンを渡すような意識のもとでつくられ、現在も更新し続けている。継続してアート支援の運営も行い、だれもが主体的に関われるように、外部アプローチから内部の小屋裏までの露路的な動線沿いに、多様な小さな居場所が散りばめられている。

「広瀬川コート」（新建築住宅特集 2023 年 11 月号 P.94-103）の掲載動画
https://www.youtube.com/watch?v=uNRLQKZjHFY



群馬県前橋市住吉町 2-2-16
※ 駐車場無し（近隣のコインパーキングをご利用ください）

資料提供：若松均建築設計事務所
フライヤーデザイン：伊藤颯太
企画協力：石黒研究室 / 伊藤脩真・北原航太・松永寛大・祝迫裕太・井田昂志・周東真也　若松均建築設計事務所 / 武井元樹・Brittany Leung